【防災メモ】
～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図１）。そのひずみが限界に達したとき、岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いのプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも発生します。

これを「陸域の浅い地震」と呼びます（図２）。

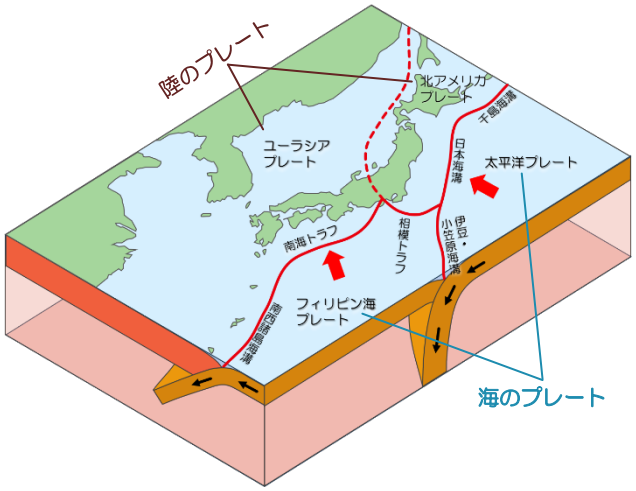


図１　日本列島周辺のプレート

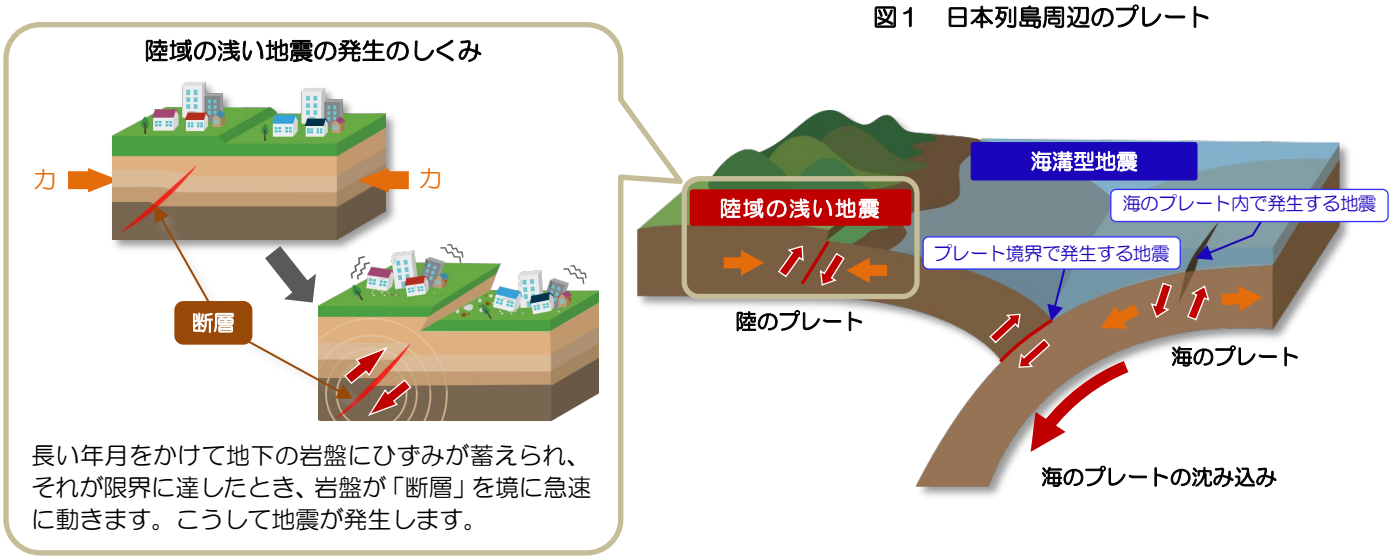


図２　日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、海溝付近で発生する巨大地震と比べると規模が小さいことが一般的です。しかし、地震が発生する場所が浅い場合には揺れが大きくなりやすく、そこに人が住んでいると、マグニチュード５～６程度の地震であっても大きな被害をもたらすことがあります。

例えば、「平成 30 年北海道胆振東部地震」はマグニチュード 6.7 と、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード 9.0 に比べて地震のエネルギーは 2800 分の１でしたが、最大震度は同じ震度７を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、強い地震動や地盤の液状化による住家倒壊などの大きな被害が生じ、北海道内のブラックアウト（大規模停電）をも引き起こしました。

地震はいつ起きるかわかりません。陸域の浅い地震など震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。